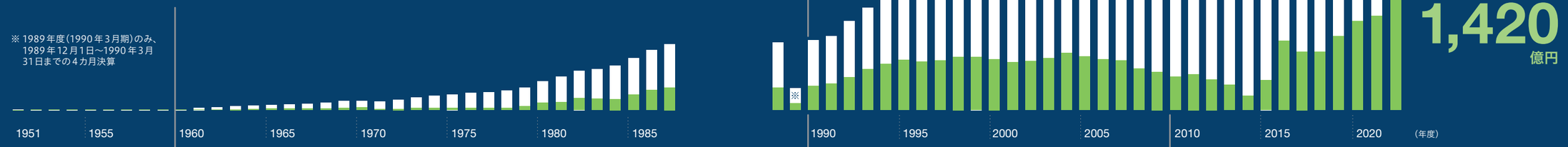
History
価値創造のあゆみ

革新的な医薬品創製に挑み続けてきました。

「わたしたちにしかできない新薬がある」
小野薬品は1717年の創業以来300年以上にわたって、各時代の痛みを癒すことを考え、
患者さんの健康を願い、邁進してきました。革新的な医薬品の創製に向け、現在もたゆまぬ挑戦を続けています。



創業から価値創造を追求

1717 創業
初代伏見屋市兵衛が大阪道修町に伏見屋市兵衛商店を創業。

1934 近代的経営への転換
八代目市兵衛により、創業以来続いた屋号を合名会社「小野市兵衛(小野市)商店」に改組・改称。

八代目 小野市兵衛

1947 医薬品の製造開始
小野薬品工業株式会社を設立し、医薬品の製造を開始。

画期的な医療用医薬品の開発で幅広い治療に貢献

1960's 医療用医薬品への転換
大衆薬から医療用医薬品への転換の可能性を探し求め、プロスタグランジン(PG)の開発などに着手。1968年には本格的な医療用医薬品の創製を目指して、中央研究所(現・水無瀬研究所)を開設しました。

1970–1980's 自社創薬により画期的な新薬を上市
1982年にノーベル生理学・医学賞を受賞されたベルグストローム、サムエルソン、ベインの3博士との協働研究をはじめとして、まだオープンイノベーションという言葉がない時代から、いち早く産学連携を推進してきました。

プロスタルモンF注射液
(1974年)

注射用プロスタンディン
(1979年)

フオイパン錠
(1985年)

より多くの人々の痛みを癒す医薬品を創出

1990's– 自社創薬に加え、ライセンス活動を強化

オノンカプセル
(1995年)

オノアクト
(2002年)

ステーブラ
(2007年)

リカルボン
(2009年)

グラクティブ
(2009年)

リバスタッチパッチ
(2011年)

がん治療に新たな選択肢を提供

2010's がん領域に本格参入
1992年にPD-1(蛋白質)が発見されてから実に20年もの歳月にわたる挑戦が実を結び、抗PD-1抗体「オプジーボ」を2014年に発売することができました。

1968 世界初 企業として世界で初めてプロスタグランジンの全化学合成に成功

あらゆる可能性を秘めた夢の物質といわれたプロスタグランジン(PG)。小野薬品は、企業として世界ではじめてPGの全化学合成に成功し、以降、研究員を含め自社が持つ多くの資源をPG関連の創薬研究に注入するとともに、アカデミアだけでなく国内外の製薬会社とも共同研究および共同開発を積極的に進めました。その結果、1974年に世界初のPG関連製剤として産婦人科領域の薬剤を開発・発売することに成功しました。以降、循環器領域、消化器領域、呼吸器領域へと貢献分野を広げ、発売したPG関連製剤は、12品目にのぼります。

> “大げさに言えば、
> 大西洋を西へ西へと
> サンタマリア号に乗って
> 新大陸を求めた
> コロンブスの心境であります”

小野雄造「第一回PG研究会」より

2014 世界初 がん治療に新たな選択肢を提供する抗PD-1抗体「オプジーボ」発売

従来、がんの治療方法は、外科手術・化学(薬物)療法・放射線治療の3つが柱となっていました。オプジーボは、人が本来持っている免疫の力を回復させることでがん細胞への攻撃力を高める作用機序を持ち、それまでになかった新たな概念の治療アプローチであることから画期的とされ、現在では、免疫療法薬によるがん治療は「第4の治療」として適応がん腫が拡大しています。悪性黒色腫の治療薬として製造販売承認を取得して以降、非小細胞肺がん、腎細胞がん、胃がんなど、現在までに世界で使用が認められたのは11のがん腫に及びます。さらなる適応がん腫の拡大に向けて、現在も臨床試験が続けられています。